早稲田商学第309号
昭和60年1月

セン・ジョン・アーヴィンの『アンソニイとアナ』

廣田典夫

1 『アンソニイとアナ』について

『アンソニイとアナ』*Anthony and Anna* は，アイルランドの劇作家セン・ジョン・アーヴイン St. John G. Ervine (1883–1971) の戯曲の一つである。一文無しの生意気なイギリス青年と，アメリカの百万長者の娘との恋物語というごく類型的な題材を扱ったものである。しかし，喜劇と銘うったこの3幕ものは単なる甘い恋物語に終ることなく，皮肉と風刺の利いたなかなか軽妙で洒脱な作品となっている。

舞台は，昔日の隆盛の面影を僅かに残す古びたセン・ピータース・フィンガー St. Peter's Finger という旅亭 (inn) である。そこには，アメリカの富豪ジェイコブ・ペン Jacob Penn が娘のアナ Anna と逗留している。そこへアナが目当てのイギリスの流行作家ヒューバート・ダンウッデイ Hubert Dunwoody がやって来る。そこへまた，一文無しのイギリス青年アンソニイ・フェア Anthony Fair も偶然に来合せて，アナを一目見たとたんに恋におちいる。ダンウッデイとアンソニイの二人に求婚されたアナの心はアンソニイに傾く。ところが，アンソニイには定職がない。職の無い者には娘はやれぬとペンは言う。しかし，遊んでいる者によってこそ，文学・絵画・音楽などあらゆる芸術が支えられ，社会の知的水準が保たれ，文明社会が存在するのだと主張す

るアンソニイは，頑として働くことを拒否する。そんなアンソニイでもよい，自分が働いてアンソニイを養うまでだと決心したアナに，今度はアンソニイの方がたじたじとなり逃げ腰になる。弱気になって何とか逃げようとするアンソニイをアナは執拗に追い求めて，遂に摑まえてしまう。このアンソニイとアナの恋の駆け引きを中心に，没落した貴族の中年女性レイディ・シンシア Lady Cynthia と成金男ジェイムズ・ジェイゴー James Jago の打算以外の何ものでもない結婚話がからむ。他に，この旅亭の所有者であり給仕頭でもあるジョージ George と給仕のフレッド Fred が登場する。給仕頭のジョージが面白い。アンソニイ贔屓で，アンソニイがアナと結婚できるように熱心に側面から援助する。いわば，世の酸いも甘いも嚙み分けた男で，「女は押しの一手ですよ」とか，「世の害悪の大半は主義・信条によって起るものです」などと言う。

こう見てくると，われわれは直ちに同じアイルランドの偉大な劇作家バーナード・ショー Bernard Shaw を思い起すことになる。アンソニイとアナは，正に『人と超人』*Man and Superman* のタナー Tanner とアン Ann に他ならず，ジョージは『分らぬものですよ』*You Never Can Tell* のホテルの給仕頭ウイリアム William なのである。『アンソニイとアナ』の改訂版に，セン・ジョン・アーヴィンはわざわざ次の場面を付け加えている。アンソニイは給仕頭の名前を間違えて二度もウイリアムと呼び，その度に，私の名前はジョージです，と訂正されるのだが，アンソニイは，

I beg pardon, George, but you reminded me of a waiter called William!

と弁明している。セン・ジョン・アーヴィンにとって，ショーがいかに大きな存在であったか，また彼がショーにいかに傾倒していたかは，彼が大作 *Bernard Shaw* を5年もかけて書き上げたことからも明らかである。(1)

『アンソニイとアナ』は，最初，1925年に出版された。そして，1936年に改

訂版が出された。出版社は同じロンドンの George Allen & Unwin である。初版本と改訂本を照合してみると，すぐに構成や語句などの面でかなり大きな違いがあることに気付く。初版本は82ページ，改訂本は74ページであるが，初版本が1ページ37行であるのに対して，改訂本は41行であるから，行数の合計で言えば両者ともほぼ3000行ということで等しい分量と言える。構成面での変化（場面や台詞の順序の移動など）を除いて，語句の面からだけみても，初版本から削られたものがほぼ600行，改訂版に新しく付け加えられたものがやはりほぼ600行である。単純に言って，全体のほぼ20パーセントが変えられたことになる。加えられた分と削られた分を考え合わせると，実質の違いは倍になると言える。いかなる著作にあっても，改訂版で多少の訂正がなされるのは当然のことであるが，『アンソニイとアナ』におけるような大幅な手直しはかなり異例のことのように思われる。そこで，次に両者の違いを具体的に検討してみたいと思うが，以下，初版本[2]をA版，改訂本[3]をB版と呼ぶことにする。なお，引用文のあとのかっこの中の数字は，それぞれの版のページ数を示す。

2 内容の相違

無論，劇の内容，骨子に大きな違いがあるわけではなく，ごく細かい点での違いである。

A	B
(1) The scene is laid, just before lunch on a *Thursday* in July,... (11)	(1) The scene is laid, just before lunch on a *Wednesday* in July,... (13)
(2) His (=Dunwoody's) age is about *forty*, ... (12)	(2) His (=Dunwoody's) age is about *thirty-six*, ... (15)
(3) He (=James Jago) is a man about *forty-seven* years of age... (53)	(3) He (=James Jago), aged about *forty-five* ... (54)
(4) GEORGE. In my opinion, sir, there's *only one way* to woo any	(4) GEORGE. In my opinion, sir, there's *two ways* to woo any

female that is a female.

FAIR. What's that?

GEORGE. Well, as the French say, sir, l'audassy, l'audassy, toojours l'audassy. Anything else, sir? (33–34)

(5) FAIR. Judge for yourself. *When I came out of the Army!...*

ANNA. Were you in the Army?

FAIR. Oh, yes. You heard about the war in America, didn't you?

...

(28–29)

female that is a female.

FAIR. What are they?

GEORGE. Well, *there's the iron 'and in the velvet glove,* sir, and, as the French say, there's l'audassy, l'audassy, toojours l'audassy. Anything else, sir? (35)

(5) FAIR. Judge for yourself. *When I left Oxford!...*

ANNA. Were you at Oxford?

FAIR. Yes, but I hope you won't feel annoyed about it!

...

(30–31)

(1)は第1幕の冒頭の卜書である。木曜日が水曜日と直されている。第2幕，第3幕の場面が日曜日であることから，この劇の展開としては3日間経過させた方がより自然だと作者は考えてのことであろうか。(2)と(3)は年齢である。ダンウッデイとジェイゴーの年齢が，それぞれ4歳と2歳若くなっている。アナ（24歳），シンシア（34歳）との釣合からであろう。(4)では，女の口説き方として「押しの一手」の外に，「ビロードの手袋をした鉄の手」が加えられている。(5)はアンソニイの経歴の違いである。A版では，大戦に参加した元兵士で，2度負傷したこと，軍隊では人の殺し方は教わったが，生活の仕方は教わらなかったと述べている。B版では，オックスフオード出身で，叔母の遺産1500ポンドを1年半で使い果した後，車のセールスマンを暫くやって止め，新聞のゴシップ欄に寄稿しようと思ったが，友達を裏切ることになるので止めた。現在は定職なし，ということになっている。

3 構成上の相違

A 第1幕

第1幕の最初の3分の1ほどの構成，つまり，場面の展開は，A版とB版で

はかなり違ったものになっている。

A版の筋を要約すると，次のようになる。

1　給仕頭のジョージが，窓からぼんやりと外を眺めている給仕のフレッドを叱る。

2　ダンウッデイ登場。昼食をとりたいと言う。更に，ペンというアメリカ人が宿泊しているかと尋ねる。

3　ジョージは，ペンは滞在していると答え，娘のアナが何にでもhをつけるイギリス流の発音をするようにと，自分に英語を教えてくれていると話す。昼食の時間を確かめ，ダンウッデイが退場しようとするところへ，アンソニイが登場。

4　アンソニイは昼食をとりたいと言う。アンソニイとジョージは，退場したダンウッデイについて話し合う。

5　ダンウッデイ再び登場。自分が高名な作家であることを匂わせる。驚かすのだから自分のことはペンに内緒にしておくようにと言って退場。

6　アンソニイがジョージに，ダンウッデイは有名な作家だと教える。ジョージは，作家という輩は好きではないと言う。

7　ジョージはアンソニイに，親子のアメリカ人が滞在していて，娘のアナは大そうな美人だと教える。アンソニイはアナに大いに興味を抱く。

8　以前に一度ここへ来たことがあると言ったアンソニイに，ジョージは，ここが昔はいかによかったか，今はいかに駄目になったかを話す。今は，碌な泊り客がなく，サンドイッチを持った連中が観光バスなんかでやってくるだけだ。紳士が紳士らしく威張っていた昔の方がよい。みんな平等のデモクラシーの今は駄目だとジョージは嘆く。

9　ペン登場。アンソニイと簡単な挨拶をかわす。娘のアナを見かけなかったかと尋ね，アナが戻ってきたら，自分は部屋にいると伝えてくれと言って退場。

10 アナ登場。

次にB版の筋を要約する。かっこの中の数字は，A版の順序を示す番号である。B版で新しく付け加えられたものは，X^1～X^4で示した。また，Aの9はBでは9^1～9^3と分割されている。

1（1） ジョージとフレッド。（Aと同じ）

2（9^1） ペン登場。娘のアナを見かけなかったかと尋ねる。

3（X^1） ペンは胃の具合の悪いことを訴えて退場。

4（2） ダンウッデイ登場。（Aの2と同じ）

5（8） 以前に一度ここへ来たことがあると言うダンウッデイに，ジョージはここがいかに変ったかを話す。（Aの8とほぼ同じ内容）

6（4） アンソニイ登場。（Aの4とほぼ同じ）

7（X^2） ジョージとアンソニイの対話。ジョージは戦争以後商売は不景気だと話す。アンソニイはジョージの名前をウイリアムと間違える。

8（X^3） アンソニイとフレッドの対話。フレッドが，ここはつまらない，他に職を求めたいとこぼすと，アンソニイは，自分の能力を伸ばし仕事を覚えるには，ここが一番いい所だとさとす。ジョージが入ってきて，その通りだと言う。

9（5） ダンウッデイ登場。（Aの5と同じ）

10（6） アンソニイとジョージの対話。（Aの6と同じ）

11（7） ジョージがアンソニイにアナのことを話す。（Aの7と同じ）

12（3） ジョージは，アナが自分に英語を教えてくれていると話す。（Aの3で，ダンウッデイに話すのと同じ）

13（9^2） ペン登場。娘が戻ってきたかと尋ねる。（Aの9の一部）

14（X^4） アンソニイとペンが挨拶をかわし，イギリスとアメリカの天気について話し合う。

15（9^3） 娘が戻ったら，部屋にいると伝えてくれと言ってペンは退場。（Aの

9の一部)

16(10) アナ登場。

A版とB版の筋の流れを，A版の番号を用いて示すと次のようになる。

A 1—2—3—4—5—6—7—8—9—10

B 1—9^1—X^1—2—8—4—X^2—X^3—5—6—7—3—9^2—X^4—9^3—10

順序が変り，新しくX^1～X^4が加えられただけではなく，語句や内容にも多少の変更がある。今と昔の違いを嘆くジョージの言葉の対象は，A版ではアンソニイ，B版ではダンウッデイ，また，自分にアナが英語を教えてくれているという同じくジョージの言葉の対象は，A版ではダンウッデイ，B版ではアンソニイと，それぞれ入れかわっている。

この改訂はどのような効果を生み出しているのだろうか。まず，ペンを早く登場させることによって，観客にペンの存在が明確なものとなり，後のダンウッデイのペンへの言及も分り易くなっている。X^1を加えて，第2幕の冒頭に付け加えられたペンとアンソニイの散歩から帰った場面への伏線としている。8を前にもってきたこと，更にX^2とX^3を加えたことで，この旅亭のおかれている厳しい状態が観客に分り易いものになっている。3のアナが自分に英語を教えてくれているというジョージの説明が後に廻されたが，これはアナが話題になっている場所に入れられたもので，自然の成行きである。簡単な挨拶をかわすだけであったアンソニイとペンの関係が，X^4が加わってより親密なものとなった。

結局，筋の展開が一層自然でスムーズになり，観客の人物や状況についての把握がより容易になったと言えるようである。

B 第2幕

第2幕における構成上の変化の第一は，B版の冒頭にほぼ4ページほど新し

い部分が付け加えられたことである。内容を要約すると，

「ペンとアンソニイが散歩から戻る。ペンは空腹を感ずるのは久し振りのことだと喜ぶ。何か食べたいと訴えるペンに，夕食まではだめだとアンソニイは厳しく言う。ダンウッデイが登場。アンソニイは着替えのため退場。ダンウッデイは賑やかなアンソニイが嫌いだと言い，ペンは楽しくなるから好きだと言う。二人でイギリスとアメリカの違いについて話し合う。ジョージとフレッドが登場して，ストーブの具合などをみる。ペンとダンウッデイは，更に話を続けようと二階へ引きあげる。ジョージはフレッドに，ダンウッデイは偽善的で勘定に細かい人だとけなす。フレッドが退場して，アナが入ってくる。アンソニイ目当てなのをジョージに見抜かれる。」

大きな変化の第二は，アンソニイが自分の人生哲学を述べる場面の位置の違いである。この場面は，A版では幕の最後におかれ，B版では幕のほぼ中ほどにおかれている。アンソニイが述べる自分の生き方の根本原則—彼の人生哲学—はこの劇の中心テーマで，これなくしてはこの劇は成り立たないという大きな意味を持つものであるから，これをできるだけ早く披露することは適切であると思われる。要約すると，

「社会の知的水準を支え，社会を魅力あるものにしているのは有閑のインテリーだと彼は説く。それはひねくれた見方だという意見に，世の中にまっすぐなものはないと彼は反論する。世の中にはいろいろな人がいる。働くのが好きな人もいれば嫌いな人もいる。他人の労働，他人が稼いだ金で生きている者もいる。しかし，文明社会の水準を維持しているのはそういう連中なのだ。その連中がいなければ，趣味も上品な生活も優雅も寛容も，それに芸術・文学・音楽・文明もなくなる。金持ちや共産主義者が規則でがんじがらめの社会を作ると——当局の許可なしでは村から村への移動もできないような——芸術も優美さも醇風もなくなってしまう，なぜなら貴族階級も有閑階級もなくなるからである。そういう社会になれば自分は餓え死にするほかない

が，それでも仕事につこうとは思わない，たとえ，愛する女のためであっても。」

ちなみに，アンソニイは現在，パーティなどの座をとりもち，人々を楽しませるいわば幇間の役で生活の糧を得ているのである。

C 第3幕

B版では，冒頭に新しく7ページ付け加えられている。要約すると，

「舞台には，ジェイゴー，ダンウッデイ，レイデイ・シンシアの3人がいる。ジェイゴーは言う。自分は実業家で口よりも行動の人間だ。アナに対するアンソニイの態度はけしからん，男は女を慈しまなければならぬ。だが，男は自分の持っていないものを持っている女だけを，やさしく大事にすることができるのだ。自分よりも何かすぐれているものを持つ女性を求めて，シンシアに出会った。妻には，誰よりもきれいで，スマートで，立派な服装をしていてもらいたい。沢山お金を使っても，自分の望む存在であって欲しい。男の理想から離れたら，その女は男からも離れるしかない。

シンシアが夫に野心と勇気と強さと同時に優しさを求めると言うと，ジェイゴーは優しさは妻であるシンシアが与えてくれるものだと言う。しかし，シンシアは，そこがジェイゴーの弱点で，ジェイゴーには高度な文化生活を営む財力はあるが心がないと言う。心の未熟な人には偉大な文学・絵画・音楽は理解できない。その心は時間と思考と訓練の結果得られるもので，仕事で忙しいジェイゴーがそれを求めることは難しい。しかし，アンソニイはそれを求めているのだと，シンシアは言う。

ペンが登場。アンソニイは好きだが，物分りが悪くて困ると嘆く。

もしアンソニイのように，人々がみんな暇を求めだしたら困ったことになると，ジェイゴーが言い，みんなが勤勉な世の中には，モラルを教えるため，私のような怠け者が必要なのだとシンシアが言う。

アナ登場。みんながアンソニイのアナに対する態度を非難して，女性は尊敬と寛容で扱われるべきだと言うと，それは子供を甘やかすのと同じで女性に対する侮辱だと，アナは怒る。そして，アンソニイは自分を決してそんなふうには扱わず，それが自分にとっては新鮮な経験なのだと言う。」

更に，幕の中ほどに，1ページ近くのアンソニイとジョージの次のような対話が加えられている。

「アンソニイは言う。自分は文無しだがアナと結婚したい。だが，彼女の父親は自分が仕事につかなければ娘はやれぬと言っている，一体どうしたらよいのだろうかと。これに対してジョージは，仕事について結婚しなさい，ちょっとばかり仕事をしたって，別に人には分りませんよ，と答える。だけど，ぼくの主義（principle）はどうなるのか，というアンソニイの問に，ジョージは，あっさりと答えている。Ignore it sir. More 'arm is caused in this world by principle than anything else. 更に，ジョージは世間一般というものを認めないのだね，とアンソニイが言うと，ジョージは次のように答える。In my opinion, 'alf the people in the world ought to be dead, and the other 'alf ought never to 'ave been born.」

作者は，このように，アンソニイの人生哲学に加えて，新たにB版に，ジェイゴーとジョージの人生哲学を加えているのである。

A版とB版の全体量はほぼ等しいと最初に述べたが，上に指摘したように，B版に相当な量の新しい部分が加えられているということは，A版からほぼ等しい分量が削除されていることを意味する。事実，全体にわたって，およそ90箇所において，数行から数ページに及ぶ削除がなされている。なお，B版で新しく加えられたものとしては，上に述べた大きな部分の他は，20箇所ほどで，それも下書の追加などせいぜい数語から1行程度のものが多い。

特に第3幕で大幅な削除がなされていて，1ページ以上削られている部分が4箇所ある。その内容を簡単に記しておく。

1. 「男が結婚したらどう変るかを，アンソニイがアナに語った言葉。男は独身時代の友達を失う。男は冒険を好み，女は安定を望むからである。友達は男の冒険生活と結びつくものであるから，妻は夫の友達を徐々に引き離して，夫を安定した平凡な生活に引き入れようとする。(71-72)」

2. 「シンシアの言葉。貴族階級はかつては富裕で強力であったが，今はそうではない。食べて行くためには働かなければならないが，仕事では，煉瓦工の娘に及ばない。そこで肩書を利用することになる。ジェイゴーが自分と結婚してくれるのはタイトルのためなのだ。

アンソニイは，明日，ジェイゴーの車に乗せてもらって，ワイト島へパーティの仕事に出かけるつもりだ，自分がいなくなればペンもほっとするだろうと言う。

ダンウッデイは，やがてアメリカへ行くのだが，ペン親子と同じ船であれば嬉しい。その前に，一緒に湖水地方へ車で旅行したいと申し出る。ペンは喜ぶが，アナはその申し出を断る。

アナは，自分には父親ゆずりの生活する才能がある，夫が働かないのであれば，自分が働いて夫を養うと言う。アンソニイは辟易する。ジョージは，アナがこの旅亭で働くと申し出てくれたのは嬉しいが，自分は斜陽の旅亭に見切りをつけ，ペンの執事となってアメリカへ行こうと思うと話す。アナはこの旅亭をいくらで手放すのかときく。(82-85)」

3. 「ジョージの言葉。人を選ぶ場合，金持ちだとか権力があるかではなく，その人が好きかどうかで決める。アンソニイは人に好かれる人だ。好き嫌いは，あれこれ考えてのものではない。金持ちは金儲けは知っていても，金の使い方を知らない。アンソニイは紳士らしい賢い金の使い方を知っている。(87-88)」

4. 「アナはアンソニイが欲しい。アンソニイはアナと金が欲しい。ペンはアメリカへ帰りたい。この3人を，ジェイゴーとシンシアとが何とか歩み寄ら

せようとするが，アンソニイもペンも譲ろうとはしない。ジェイゴーとシンシアは匙を投げる。(89–90)」

B版では，ジェイゴーとレイデイ・シンシアは，第3幕の後半の舞台から全く姿を消すことになる。A版とB版の大きな相違点の一つである。すなわち，ジェイゴーとシンシアは第3幕の初めに登場して，長々とそれぞれの生き方について述べる。ジョージがアンソニイに「主義なんか無視なさい」と忠告した後に，二人はもう一度ちょっと登場するが，その後は全く舞台から姿を消す。従って，上で述べた2と4が，B版から欠落ということになる。

4 語句の相違

語句の相違といっても，1，2語違うものから，数行に及ぶかなり大きな違いのものまである。まず比較的大きな相違のある例をあげてみよう。

A	B
(1) DUNWOODY. By the way, that gentleman who has just gone out! ... GEORGE. Mr. Fair, sir. DUNWOODY. Is that his name? GEORGE. Well, it's what he put in the register, sir. I 'ave known people not to put the right name. DUNWOODY. Is he staying long? GEORGE. The same as you sir — an indefinite period. DUNWOODY. H'm! Tiresome! (21)	(1) DUNWOODY. By the way, that gentleman who has just gone out, is he staying long? GEORGE. I don't know, sir! DUNWOODY. H'm! Tiresome! (24)
(2) CYNTHIA. Anna! My dear! (*They embrace.*) What ages since we met! ANNA. A fortnight ago to-day. CYNTHIA. My dear, I never dreamt of seeing *you* here. And	(2) CYNTHIA. Anna! My dear! (*They embrace.*) What ages since we met! (Seeing TONY.) And Tony Fair! (53)

Tony Fair! (50)

(3) PENN. I guess my daughter's pretty mad about you. I guess she's incurably in love with you.
FAIR. Yes, I think so myself. (61)

(4) GEORGE. You know, young fellow, you'll end your days on the scaffold. I've seen chaps go wrong in my time, and they all started off like you — sloppy! (63)

(5) FAIR. You love me, Anna, don't you?
ANNA. No.
FAIR. Yes, you do. You do, Anna, you do, you do! (39)

(6) ANNA. Do you expect me to believe that?
FAIR. Not if you don't want to. But it's true. (38)

(7) GEORGE.... 'Eaven, if you'll pardon the expression, might 'ave made Mr. Fair and you with the idea of your marrying each other. I do 'ope you'll 'ave 'im, miss. (78)

(8) ANNA. George, I like you.
GEORGE. I'm very glad to 'ear it, miss, and if you'll excuse me for saying so, I return the compliment. I like you, miss. (78)

(3) PENN. I guess my daughter's in love with you.
FAIR. Yes, I think so, too. (60)

(4) GEORGE. You know, young fellow, you've been to the pictures, and if you ain't careful, you'll come to a bad end. (68)

(5) FAIR. You love me, Anna, don't you?
ANNA. No.
FAIR. Don't lie, Anna. (42)

(6) ANNA. Do you expect me to believe that?
FAIR. I do. (41)

(7) GEORGE.... 'Eaven, if you'll pardon the expression, might 'ave made Mr. Fair and you for each other. (79)

(8) ANNA. George, I like you.
GEORGE. I've very glad to 'ear it, miss, and if you'll excuse me for saying so, I like you, miss. (79)

B版の(8)の I've は I'm の誤植であろう。一般に，B版の方が簡潔な表現になっている。

次に，比較的小さな違いの例をあげることにする。語の書きかえや削除または補足，或は僅かな表現の手直しなどごく微妙な違いのものである。

A

(9) GEORGE. ... *Did* you *identify* him, sir? (15)

(10) FAIR. What's Miss Penn like? *Pretty?*

GEORGE. She's American, sir. Very *pretty.* (16)

(11) ANNA (*to* DUNWOODY). We've had roast beef every day since we arrived in this hotel, except once, when we had *cold roast beef.* (23)

(12) ANNA. If you can spill some of Mr. Fair's coffee over *him,* I'll be grateful to you. (31)

(13) FAIR. George, if you were me, and you were very much in love with a lady, how would you *woo* her? (33)

(14) ANNA. ... I've never known anybody in my life so *incorrigibly insolent* as you are. (37)

(15) PENN. *Mr. Fair,* did you propose marriage to my daughter? (41)

(16) FRED. ... Now, if we was to call it the Carlton 'Otel, an' 'ave *a jazz band* and tea-dances every afternoon! (64)

(17) GEORGE. ... When 'e's married to one of these little *flappers with bobbed 'air* 'e'll get a 'ell of a drop. (67)

(18) FAIR. ... And one of my terms is strict truth between her and me. No pretences.

CYNTHIA. This passion for *veracity* unnerves me. (68)

(19) GEORGE. ... That's a Latin expression meaning *out of his mind.* (78)

B

(9) GEORGE. ... *Do* you *know* him, sir? (19)

(10) FAIR. What's Miss Penn like? *Attractive?*

GEORGE. She's American, sir. Very *attractive.* (20)

(11) ANNA. (*to* DUNWOODY). We've had roast beef every day since we arrived in this hotel, except once, when we had *boiled beef.* (26)

(12) ANNA. If you can spill some of Mr. Fair's coffee over *his pants,* I'll be grateful to you. (33)

(13) FAIR. George, if you were me, and you were very much in love with a lady, how would you *court* her? (35)

(14) ANNA. ... I've never known anybody in my life so *fresh* as you are. (41)

(15) PENN. *Tony,* did you propose marriage to my daughter? (45)

(16) FRED. ... Now, if we was to call it the Carlton 'Otel, an' 'ave *a couple of crooners* and tea-dances every afternoon. (69)

(17) GEORGE. ... When 'e's married to one of these little *platinum blondes* 'e'll get a 'ell of a drop. (71)

(18) FAIR. ... And one of my terms is strict truth between her and me. No pretences.

CYNTHIA. This passion for *truth* unnerves me. (73)

(19) GEORGE. ... That's a Latin expression meaning *barmy*! (80)

(20) PENN. ... The entire *Prohibitionists* of America would get on my trail. (89)

(21) ANNA. Sure. He'll be glad to work when I'*ve done* with him. (91)

(22) PENN. I don't, but I'd *just* like her to know. (18)

(23) JAGO. I should *just* think so. (56)

(24) GEORGE. Very infectious gentleman, that, very infectious. (21)

(25) ANNA. Oh, can that! Don't imagine because I'm talking to you now, that I'll *continue* to talk to you when the rain stops. (37)

(26) FAIR. That's what I was going to tell you on *Thursday,* only you interrupted me *so much.* (41)

(27) FRED. Be'ind the times. Out of date! (64)

(28) GEORGE.... My experience, *sir,* 'as taught me that women as a general rule 'ate to think they can domineer over men. (67)

(29) ANNA. ... How much *money* have you got?

FAIR. *None.* (80)

(30) ANNA. Mr. Dunwoody, will you take me for a walk?

DUNWOODY. *Certainly. Let's get ready!* (33)

(31) PENN. *I beg your pardon!* (45)

(32) FAIR. Yes — they were rich and enthusiastic and *exceedingly mean.* (56)

(33) FAIR. ... I tried my best to cheat

(20) PENN. ... The entire *Press* of America would get on my trail. (85)

(21) ANNA. Sure. He'll be glad to work when I'*m through* with him. (85)

(22) PENN. I don't, but I'd like her to know. (21)

(23) JAGO. I should think so. (57)

(24) GEORGE. *A* very infectious gentleman, that, very infectious. (24)

(25) ANNA. Oh, can that! Don't imagine because I'm talking to you now, that I'll talk to you when the rain stops. (41)

(26) FAIR. That's what I was going to tell you on *Wednesday* only you interrupted me! (44)

(27) FRED. Be'ind the times. Out of date! *Obsolete!* (68)

(28) GEORGE. ... My experience 'as taught me that women as a general rule 'ate to think they can domineer over men. (71)

(29) ANNA. ... How much have you got?

FAIR. *I haven't any!* (81)

(30) ANNA. Mr. Dunwoody, will you take me for a walk?

DUNWOODY. *I shall be delighted.* (34)

(31) PENN. *Pardon me! (He resumes his seat.)* (48)

(32) FAIR. Yes — they were rich and enthusiastic and *most unwilling to lose their money.* (57)

(33) FAIR. ... I tried my best to cheat

... but I was too clumsy and nervous to succeed. *I saw* then that if I wanted to make money at cards I must learn to play them better than anybody else, *and I have become a highly accomplished player.* (58)	... but I was too clumsy and nervous to succeed, *and I realized* that if I wanted to make money at cards I must learn to play them better than anybody else. I'*m a very accomplished player.* (58)

(9)の identify が know に，(10)の pretty が attractive に訂正されているのは，神経の細かさを感じさせる。(11)では，cold roast beef と roast beef ではあまり変りばえがしないということで，boiled beef ということになったのであろう。(12)の him が his pants に変えられているのも頷ける。(13)では，やや古めかしい語の woo が court に変えられている。(15)の Mr. Fair が Tony になったのは，新しく加えられた第2幕の最初の場面で，ペンがアンソニイをすでに Tony と呼んでいるからである。(16)の a jazz band が a couple of crooners に，(17)の little flappers with bobbed 'air が little platinum blondes にそれぞれ変えられている事実にも，重ねての推敲の苦心が窺える。(18)の veracity が truth となったのは，前のアンソニイの言葉 strict truth をそのまま引きついだ方が自然だからであろう。(19)の out of his mind が俗語の barmy に変ったのは，ジョージの味を出すためであろう。(21)では，I've done with him が I'm through with him に変えられている。B版の66ページに，アナの言葉でやはり I'm through with him がある。結局は好みの問題であろうか。(22)，(23)の just の削除，(24)の冠詞の問題，(25)の continue と(26)の so much の削除などにも，細かい神経が働いている。(26)の曜日の違いは，最初の曜日の設定の違いからの当然の変更である。(27)では obsolete が加えられているが，今まではほとんど語句が削除されていたのに，ここでは珍しく語の追加ということになった。(30)，(31)，(32)は多少表現が異なるものである。

以上の比較・検討の結論として，この改訂は，大幅な追加・削除・順序の入

れかえなど思い切った変更を実施すると共に，一語一句にも細かな神経を行きとどかせたもので，大胆と細心が美事に結合したものと言えるであろう。

注(1) Ervine, St. John, *Bernard Shaw*. London : Constable, 1956.

この序文の中で，セン・ジョン・アーヴィンは，I knew G. B. S. intimately for more than forty years, and I felt an affection for him that was proof against all mischance or misunderstanding. と述べている。

(2) Ervine, St. John, *Anthony and Anna*. London : George Allen & Unwin, 1925.

(3) Ervine, St. John, *Anthony and Anna*. London : George Allen & Unwin, 1936.